映像資料番号 219　　データ採録者: 三浦雅美　　校正:下田康平

visual				audio			
scece	shot	subtitle	object	narration	part	music/sound	liric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽／音	歌詞
1	1		窓から外を見つめる白いシャツにネクタイ姿の男性1(村長)。その後ろにももう1人男性2が立っている。外は雨が降り、風が吹いている。二人は暫くすると、窓から離れる			○	
2	1		屋外。雨が降り、風が吹いている			○	
	2		雨の中、傘もささず、蓑を着た人々が一列で歩いている。荷物を持っていたり、蓑さえ羽織っていない人もいる			○	
	3		雨風が木々をゆらす			○	
	4		雨の中、傘もささず、蓑を着た人々が一列で歩いている。荷物を持っていたり、蓑さえ羽織っていない人もいる			○	
	5		雨風が木々をゆらす			○	
	6		雨の中、傘もささず、蓑を着た人々が一列で歩いている。荷物を持っていたり、蓑さえ羽織っていない人もいる。先頭は、布が被せられた大きな荷車(？)を運んでいる			○	
3	1		室内。男性1(村長)が部屋を歩いている。そこへ眼鏡の男性3が走ってきて、話をしている。別の男性2(？)も近づいて		男性3:村長、一本松の堤が危険です	○	
	2		男性1(村長)の顔と、男性3の後頭部		男性3:しんどう橋も流れます 男性1(村長):この嵐ではにわか修理も役に立つまい	○	
	3		男性1(村長)の顔のアップ		男性1(村長):心配したことが事実となってきた	○	
	4		男性1(村長)の顔と、男性3、男性2の後頭部。男性1(村長)が右腕を横に振って指示すると二人は走り出した		男性1(村長):女、子供は早く裏山へ非難させてくれたまえ	○	
	5		部屋を去る男性2、3。部屋には男性1(村長)一人だけが残った。風で部屋のカーテンが揺れている。男性1(村長)はドアに手をついて寄りかかった			○	
	6		ドアに手を突いて寄りかかる男性1(村長)。窓の外を見やる			○	
	7		窓。外は雨風で木々が揺れている。どしゃぶりだった			○	
4	1		ガラス張りのドアに雨が打ち付けている。そのドアをあけて1人の帽子を被った男性4が入ってきた。額をぬぐい、声を張り上げる。そのすぐ後、蓑を被った大勢の村人がなだれ込んで口々に叫び、男性1(村長)の方へ進んでいく		男性4:村長さん、早く逃げてください。村の物が大勢で村長に談判するとやってきました 大勢の村人の口々に喋る声 男性4:村長、村長	○	
	2		男性1(村長)のいる室内へ大勢の村人がなだれ込む		大勢の村人の口々に喋る声 村人(？):村長が何だ、村長が何だ(？)	○	
	3		土砂降りの雨のせいで地面がぬかるんでいる			○	
	4		蓑を被った男性5、男性6が喋り始める		男性5:村長あれほど頼んだ堤防工事はどうしてやってくれなかったんです 男性6:一本松の堤がやられたら、わしらはどうなるんだ	○	
	5		男性1(村長)は、手で落ち着けとジェスチャーする		男性1(村長):待ってください。まあ、お待ちなさい。役場の金庫は空っぽです。皆さんが今まで	○	
	6		蓑を被った男性5の顔		男性1(村長):きちんと税金を納めてくだすったら	○	
	7		レインコート(？)を被った男性6の顔			○	
	8		男性1(村長)の顔のアップ		男性1(村長):堤防工事くらいは立派に出来ているはずです。今まで悩まされた伝染病だって	○	
	9		たくさんの村人が笠を被っている中、ねじり鉢巻をした男性7がそのねじり鉢巻を外した		男性1(村長):衛生設備が十分でないからです	○	
	10		蓑を被った男性5の顔			○	
	11		レインコート(？)を着た男性6の顔			○	
	12		男性1(村長)のアップ		男性1(村長):村は皆の村です。この村を興すも滅ぼすも、皆が力を合わすか合わさぬかにある	○	

scece	shot	subtitle	object	narration	part	music/sound	liric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽／音	歌詞
	13		蓑を被った男性たち		男性1(村長):橋だって道路だって、税金なしでは出来ません	○	
	14		男性1(村長)のいる室内には大勢の村人達が立っている		男性1(村長):あの惨めな小学校を改築するために、増税を計画したと	○	
	15		蓑を被った男性たちを指をさす男性1(村長)。村人達は目を伏せた。そして次々と笠や帽子を外していく		男性1(村長):反対したのは皆さんでした	○	
	16		男性1(村長)		男性1(村長):税金の使命は最も重大です。今度(？)のシナ事変の大変な費用も税金でまかなわれるの	○	
	17		ガラス張りのドアに雨が打ち付けている。そのドアをあけ要吉、男性8と頭に布を被った女性1が入ってきた		男性8:さあ、どうぞ	○	
	18		蓑を被った男性たちをかき分けて、一番先頭に並ぶ男性8、要吉と女性1。女性1が男性1(村長)の前へ一歩踏み出した		女性1:お父さん、兄さんが帰りました	○	
	19		女性1の後頭部と男性1(村長)の顔。男性1(村長)は、要吉を見る。女性1は頭の布を外した			○	
	20		うつむく要吉			○	
	21		うつむく要吉の代わりに発言する隣の男性8		男性8:村長、要吉君が一本松の堤を皆と一緒に護ってくれました	○	
	22		要吉と村人が映る。村人は顔を見合わせ頷きあう			○	
	23		男性1(村長)の顔			○	
	24		要吉は男性1(村長)を見て、頭を下げる		要吉:招集状の来たことは妹から聞きました。私の不心得からご心配をかけて、すいませんでした	○	
	25		男性1(村長)は何かを言いかけるも、結局黙って頷いた			○	
	26		蓑を被った村人をかきわけ、男性3がやってきた		男性3:村長、皆さん、水が引き始めました	○	
	27		夜道を、歩いている人々。先頭は提灯を持っている			○	
	28		室内にとどまっている、蓑を被った村人達と男性3と、要吉と男性8と女性1と男性1(村長)		男性1(村長):皆さん、私は果報者です。洪水から救われ	○	
	29		男性1(村長)のアップ。にこやかな顔をしている		男性1(村長):その上、倅は男子として最も名誉ある召集令状をいただきました	○	
	30		室内にとどまっている、蓑を被った村人達と男性3と、要吉と男性8と女性1と、男性1(村長)。要吉は、皆に向かって頭を下げた。蓑を被った村人達は両手を上げ、万歳をした		要吉:私はおかげさまでお国のために働くことが出来ます 村人達:ばんざーい、ばんざーい、ばんざーい	○	
5	1		風にはためく日本国旗	秘伝の力は村人達に大望の日(？)を渾然と悟らせました		○	
	2		看板"国民精神総動員""日本精神口場""堅忍持久"と書かれてある。他にも、日本国旗と、太陽のような看板が2つあ	滞納村の汚名を洪水に洗い流した盛田村は、一躍かんのう村(？)となりました		○	
	3		役場の窓口のような所に並ぶ男女。男性9が、紙を提出し、それを貰って去っていく。その後ろの女性2も男性と同じく紙を出し、受け取って帰っていく。その後ろの和服の男性7(？)は自分の順番が来たことに気づかず、喋っていたが後ろの男性10に肩を叩かれようやく気付き、窓口まで移動して、紙を提出した		男性7(？):ええ、どうもご心配をおかけしまして、なんともすいません。これからもう決してもうお手数はかけません。納税組合をこしらえようって話ができましてね。それでまあなんで、え、ほ、はは、順番か。お願い	○	
6	1		和服の髭の男性7(？)は、"納税組合事務所"と書かれた看板を手にしている。その両脇に男性10(？)と男性11が立っている。3人の男性はにこやかに笑って門のところに看板を		男性7(？):納税組合事務所。立派なもんじゃねぇ、えへぇ	○	
	2		看板を掛けた門から離れていく男性7、10、11。少し離れて看板を見て頷きあうと、3人は門をくぐった	村人達の美しい労力の奉仕もあって		○	
7	1		橋を渡る日傘を持った女性	次々に村は改善されてゆきました。まず立派に出来上がっ		○	
	2		道路の上で作業をする人々。子供や、犬も歩いている	改修された道路。それに、水魔撃退の堤防。そしてまた若草のようにすくすくと伸びてゆく子供たちの上に		○	
	3		ラジオ体操を行う体操着姿の子供たち	地方には稀な近代設備を施した校舎が		○	
	4		ラジオ体操を行う体操着姿の子供たち	新築されました。晴れ渡った大空に響く元気な先生の号令に若鮎のような溌剌たる少年少女のこの		○	
	5		ラジオ体操を行う体操着姿の子供たち	ほほえましい姿をご覧ください		○	
	6		上半身裸で行進するこども達			○	
	7		上半身裸でラッパを演奏する少年達			○	

scece	shot	subtitle	object	narration	part	music/sound	liric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽／音	歌詞
	8		上半身裸で行進するこども達			○	
8	1		紙には”明治天皇御製　国を思ふ道に　二つはなかりけり いくさのにはに　立つも立たぬも”と書かれている	国を思ふ道に、二つはなかりけり、いくさのにわに、立つも立たぬも。国を思ふ道に、二つはなかりけり、いくさのにわに、立つも立たぬも		○	
	2		日本民家の藁屋根	明治大帝の御身心を		○	
	3		川（？）を渡る船。川の周りは木々に囲まれている	拝察し奉りにつけても、銃後の我々が等しく思うは、極寒零下何十度		○	
	4		田植えをする人々	極暑百何十度の戦野に、血を流し骨をうずめて祖国のために戦う勇敢なる同胞のこと共であります		○	
	5		水車みたいなものの上に人が乗り、それを足で回している	同時に限りなくささぐる尊敬と、熱誠でなければなりません。皆さん		○	
	6		民家の前で数人が地面に藁のような敷物を敷いている	【出征？】の勇士達の後顧の憂いを断ちましょう。闘いの目的達成の日まで、戦線の勇士達に心置きなく振舞えるよう		○	
	7		建物の中でミシンをしている人物	誠を尽くした声援と安堵とを送りましょう		○	
	8		草むら。その中に民家があり、水牛のような動物が一頭と、藁を撒いている人がいる	勇士は闘いを通じて祖国を護り、銃後の我々はそれぞれの職場によって		○	
	9		にわとり（？）	仕事にいそしみ、納税を通じて祖国を護りましょう		○	
	10		橋を渡る人々。橋の下の川には太陽が映り、そこに船が一隻渡る	納税の果たされるところ、郷土の繁栄があり。国家の限りなき、発展がある		○	
9	1	試練の嵐　終　オール．キネマ社 【※表記文字右読み】				○	